

平成24年度第二回森林環境保全基金運営委員会 議事録

開催日時 平成24年8月31日(金) 13時30分～14時45分
開催場所 高知会館2階 天平の間
参加者 (委員)
根小田渡委員(委員長)、堀澤栄委員(副委員長)、片岡桂子委員、
川村純史委員、窪田真一委員、林須賀委員、山中國保委員
(事務局：高知県林業環境政策課)
岩村課長、久保課長補佐(木の文化担当)、出口主任、吉田技師
欠席 井上将太委員、門田芳穂委員、時久恵子委員

1 林業振興・環境部副部長 挨拶

2 議事

- (1) 平成23年度森林環境税活用事業の実績報告
→資料1、資料2に基づき事務局から説明

【質疑】

(窪田委員)

23年度の予算額は、この資料のどこかでわかりますか。

(出口主任)

23年度ですか。

(窪田委員)

予算額に対しての決算額を見ないと評価できない。

(出口主任)

3月に基金運営委員会を行ったときの資料にあります。

(窪田委員)

その時の資料と金額は変わっていないのか。

(出口主任)

変わっていません。

(堀澤副委員長)

これですか。(資料を事務局に見せる)

(出口主任)

そうです。3億2千9百万というのが今年度の当初予算です。もし、ないようでしたらまたこちらの方から郵送させていただきますので宜しくお願いしたいです。

(根小田委員長)

回答して郵送すれば良いんですね。

(出口主任)

はい。

(根小田委員長)

名前はどちらのいいですか。

(出口主任)

無記名で良いです。

(片岡委員)

これ、今後の方向性という事なので、言ってみれば来年度に向けてという事なんですか。

(出口主任)

今年度は既に事業が行われていますので、「今後の方向性」は、三期目があるのであればという仮定の元で「来年度の」という事になります。

一度、委員さんに評価をしていただけたら、三期目が続く場合、事業の審議にあたっての参考にもなりますのでよろしく申し上げます。

(窪田委員)

この資料1の基金に積み立てた額は、繰越も全部入れてのことですか。

(出口主任)

違います。これは単年度です。それでですね、実はお手元に基金残の状況に関する資料を今回お配りしてなくて、そこについては今から口頭で簡潔に説明いたします。

まず、23年度が終わった時点で基金残は191,970,569円です。24年度の歳入は税込や運用益、寄附金で167,009,000円の予算になっています。

先ほど言いました23年度末残191,970千円と、今年度の167,009千円を足した金額が24年度の財源になります。

一方、歳出の当初予算では329,000千円を組んでますので、単純に引き算すると約3,000万円、順調に事業を執行すれば3,000万円余る計算になります。

という事は、今年度の329,000千円の当初予算がもし満額執行出来なった場合は基金残は3,000万以上の残が生じるという事になります。

(久保補佐)

それと23年度、先ほど出口が事業の一覧の中で説明申し上げました、廃止もしくは統合された事業につきましては、このシートの裏面の②のところの今後の方向性とか意見欄については斜線で消し込んで頂いて結構です。

(出口主任)

先ほどの久保の方からの説明なんですけれども、24年度に実施していないものについては、4ページ、生き活きの事業の⑩番についてはナシ。それと続きまして26ページの自然ふれあい体験、これもナシです。それと50ページのグリーン熱認証、これもナシです。

基金残の関係でちょっと判りにくい点がもしもあれば、もう一度説明しますが、いかがでしょうか。

(窪田委員)

今年の事業の執行状況はどんな感じですか。

(出口主任)

間伐の事業である公益林保全整備事業、今年度の目玉ともされている事業ですが、第1-四半期が終わった段階で500haです。今後、第3-四半期と第4-四半期で一気に執行していく見込です。

林業改革課職員が市町村と森林組合を7月から回っています。切捨間伐に対する支援は、もう実質これだけだということをお皆さんは認識してですね、当事業に対して好感度があったという話を一昨日、聞いてます。

ただ、事業を実施するためには、市町村が予算を立てる必要があるという事と、国の定

める、法律に定める計画に山の情報を記載するという2つの手続きが必要な事もあって、それをクリアしたところから、順次、事業が実施できるといった事になっています。

今は9月補正に計上する事が決まっている市町村と、12月補正に計上して1, 2, 3月でやりきる市町村に二分されているようです。

あと、木の香るまちづくり推進事業ですが、約5,000万の規模に対して、1次募集で約3,800万の交付決定をしました。現在、2次募集を今かけている状況で、来週早々には2次募集の概要もはっきりするといったところで、概ね順調というふうに担当課から聞いております。

(山中委員)

これ今まで、3月に頂いた資料の中に、各基金と残高の状況という資料は頂いてましたか。

(出口主任)

そうですね、年度ごとの執行額と基金残を記した表を委員の皆さんにお配りさせていただきました。

(根小田委員長)

我々が読んで、じっくり評価してほしいという事ですか。

(出口主任)

はい、そういう事になります。

(根小田委員長)

基金残の理由は、当初の1億6,000万かな、その使い道は、大体ハード事業が2/3、ソフトの作業が1/3みたいな、そういう大きな枠があって、従ってハードの森林整備の事業のところが執行残高が大きくて、それが基金残に繰り上がっているみたいなイメージなんですけど、それは主として国の事業との関連としてそうなったというような事務局の方は説明をしていたと思うんですが、そう理解で良いのかという事が一つ。

それともう一つは、予算は単年度でしょ、大体、予算の年度っていうのは。単年度で予算を作って、執行しているみたいなスタイルですよ。

(出口主任)

はい。

(根小田委員長)

ところが、実際問題として事務手続きだとか補助金の申請だとか。市町村の関係だとか、森林組合の事情だとか、それから国との関係だとかいろいろあって、大体、執行っていうのは年度の後半から、最終盤にかけて行われる感じなんですよ。

(出口主任)

はい、補助金は特にその形が多いです。年度当初、4月からいきなり業者さんを決めて委託契約をするっていうようなタイプの事業はうちの事業では少ないです。早くて5月です。

(根小田委員長)

だから、そこからすぐ、予算の運営とか執行の、技術的な要素っていうのは、さっきの基金残に繋がっていくのどうか。

(出口主任)

事業のスタートが遅いから結果的に執行できなかったことが主な要因ということですか。

(根小田委員長)

ええ。

(出口主任)

例えば森林整備とかになると、施工自体がどうしても秋口からのスタートになりますので。作業路を抜くのに支援をするとするとまた違うんですけど、作業路を抜いたり、下刈りとか植え付けに対する支援をするとすると、もっと春先から動いたりするんですよ、梅雨時期とかに下刈りも行ったりします。ただ、間伐に対してはどうしても秋以降にならざるを得ない。

(窪田委員)

要は、このお金を使う要領、要綱は4月から作成します。県から要領・要綱が出てくるのはだいたい7月なんです。6月後半から7月に僕らは今年度の要領・要項をもらうんで、それに従って契約したりとか、事業を始める訳で、実際ものが動き出すのが7月後半から8月。

(出口主任)

窪田さん、それは国費はそうです。

(窪田委員)

ちょっと心配しているのは今回の国の事業の中で、切捨間伐は補助金を出さないと言ったものが出るような情報があります。

(出口主任)

胸高直径 18cm 未満の間伐ですね。

(岩村課長)

そうですね、初回間伐とか。

(窪田委員)

搬出の費用を除いた切捨の部分にかかる費用に関しては、その補助金を出すという話がちらほら聞こえてきます。

(窪田委員)

(評価シートの) ⑩番の ABC の定義を教えてください。

A はどの程度の事をやっているとか、B はどの程度の事か、C っていうのは辞めるっていうレベルですか。

(出口主任)

C は、あまり成果は上がっていない位置付けですね。

(窪田委員)

C は成果が上がっていない。

(出口主任)

ええ。B は概ね上がっている。A は上がっている。

(片岡委員)

⑨の成果のところの

(出口主任)

⑨の成果の ABCD 欄と概念的には一緒です。

(根小田委員長)

B と C がちょうど中間くらいですね。

(出口主任)

はい、そういう事になります。

(山中委員)

優良可不可みたいな事ですかね。

(出口主任)

不可まではなかなか言えないです。

(窪田委員)

優良可やや可みたいな。

(山中委員)

先ほど説明がありました、この我々が出させてもらう評価を課の方でご参考にされるという事ですかね。

(出口主任)

そういう事ですね。事業担当課もこの事業が客観的にどう判断されているのかというところを知っておくべきなんですよ。自分たちはこれが本当に100点満点正しいと思ってやっている事が必ずしもそうとは限らない場合もありますので、その辺は、委員さんのほうから、こういうご意見があったといった事は伝えなければならないと思っています。

(山中委員)

書く心づもりがありますので、かなり厳しく評を書くべきなのか、まあまあで書くべきなのか、甘く書くべきなのか。

(出口主任)

委員の皆さんの率直なご意見で構いません。

(堀澤副委員長)

今の話に関してちょっと、今のだとだいたい、直線的に ABCD、それこそ E っていうくらいに、良くないっていう感じですけど、⑩の評価はあまりにもこういうふうではなくて、成果は上がったけども縮小しても良いのか、そういう場合もあると思うんですよ。

(出口主任)

ええ。そうですね。

(堀澤副委員長)

そうすると、今の客観的にこの事業はどう評価されているのかっていうのと、この⑩が示す評価が必ずしも一致しないということもありますよね。

(岩村課長)

確かにそうですね。

(久保補佐)

そうですね。

(堀澤副委員長)

もしかすると。大変良くやっているけれども、もういいでしょうということもありますでしょう。それは自由記述で。

(久保補佐)

それはそうです。

(岩村課長)

ええ。当初の目的は達したので、これはもう廃止というのものもあるでしょうし。

(堀澤副委員長)

判りました。

(岩村課長)

あと、また、こういった評価をして頂く事で環境税が継続する場合に、来年度事業をご議論して頂く時に、この評価等を参考にまた次年度の予算のあり方についてご議論の参考にもなると思いますので。

(出口主任)

委員長、23年度の実績報告に関するのは、この辺で宜しいでしょうか。

(根小田委員長)

うん。まあちょっと予定よりは早いけど。

(片岡委員)

すいません、いつまでですか。

(出口主任)

いつまでにさせて頂きましようか。皆さんお忙しいし、あれですけど。10月の第一週目くらいまでに頂けると有難いですね。

(根小田委員長)

こういうものとしたら、9月の末くらいまでに。

(出口主任)

そうですね。

(山中委員)

9月の末までに出せば大丈夫ですね。

(出口主任)

そうですね。有難いです。

(山中委員)

9月の末までに出すと。

(出口主任)

10月の半ばくらいから、環境税の継続が条件になりますけども、予算が始まります。それまでには一定、取りまとめ、集約はさせて頂きたいなというふうには思っています。

(根小田委員長)

ほか、よろしいでしょうか。委員さんの皆さん。では、その他の事項について。

(2) その他

今後の森林環境税のあり方についての検討スケジュール

→資料3に基づき事務局が説明

(出口主任)

お手元の資料で、資料3とA3の横長の資料があると思いますけども、今後の森林環境税のあり方についての検討スケジュールという事で、グレーに網掛けされている部分が既に終了した項目です。

順調に作業が進捗しておりまして、今後のあり方に関するパブリックコメントのご意見を頂く期間もまさに今日が締切日ということになってます。

そんな中、今日の午前中にコメントが2件届きました。それについて簡潔に説明いたします。

(久保補佐)

それでは、パブリックコメントに関する現在の状況につきましてご報告をさせていただきます。本日の現時点では2件のご意見を頂戴しておるところです。1通は電子メール、1通はハガキという事で頂いておりまして、いずれも高知市内の在住の方からとなっております。そのご意見の概要をそれぞれご紹介させていただきます。

まず、一つ目の電子メールでのご意見につきましてですが「地球規模での天候異変による世界各地での干ばつなど異常気象を見ると、将来の気候変動に備えて森林環境税で水源確保の森づくりを進めて頂きたい」といった内容のご意見でございます。

次に二つ目のハガキのご意見でございますけれども、まず「森林環境税は是非継続すべき」といったご意見ございまして「森林は本県にとり貴重な財産であり、我々県民が守っていかねばならない。また、森林は長期に渡って管理をしていく事が必要である事から、これまで二期、森林環境税を使って森林の管理を行っており、今、中止してはこれまでの苦労が無駄となるので継続していく事が必要」といったものが、こちらの方のご意見の主な趣旨でございます。

なお、この方からは森林環境税の事業の効果が直接目に見える物に使っていく事、情報公開をしていく事が大切であるといったご意見も付与して頂いております。以上が現時点で頂いておるパブコメのご意見の主な概要でございます。

(出口主任)

こういった県民の方から頂いているコメントについては、くださった方の名前等は公表はしませんが、全て県庁のホームページに後日アップさせて頂くという事しております。

また、A3のこの資料3に戻りますけれども、こういった県民の方からのご意見を「今後の森林環境税のあり方に関する方向性について」という冊子に、どのように反映させていくのかを内部で揉んだ上で、もし変更がありましたら、また9月中旬に基金運営委員会を開催して変更案を提示させて頂いて、9月議会での報告の了承を頂く可能性もございますので、また宜しくお願ひしたいと思います。

(久保補佐)

特に修正等がもし無ければ、そのまま前回、ご審議頂いた形で12月議会の方に向けて議案を調整させて頂きたいというふうに考えております。

(出口主任)

はい、それと、今年度の事業の進捗云々については、10月下旬の当委員会にて報告さ

せて頂くことを事務局では考えております。

今日お配りしている評価シートの、目標値と中間値が入った24年度版が、また委員さんの皆さんに届くといった事になるかと思っておりますので、宜しくお願いしたいと思います。

(久保補佐)

それと予算の編成に関しましては、12月議会を経て、森林環境税の継続が決定すればになるんですけども、正式には三期目の継続。ただ、予算編成が10月の中旬からスタートする関係上、前回第二期目の継続を決める際にも、予算的には仮にという事で10月から予算編成を進めさせて頂いております。今回もそのような形でまた11月の第二週目に25年度の環境税を財源とする予算については、取り敢えずという形でご審議をお願いする事になるかと思っております。

(出口主任)

スケジュールについては以上でございます。

(久保補佐)

その他、連絡事項でございますけども。今お手元に、チラシのコピーとポスターの方をお手元にお配りさせて頂いております。ポスターは、こちらになるんですけども、堀澤先生とか林さん、是非、大学とか生協に貼って頂ければと思います。環境税活用予算という事で採択頂いた、四国山の日 in こうち、10月13、14日両日に開催されますので、そちらのポスターをお手元にお配りしております。

また、ご掲示の方ご協力をお願いしたいのが一点です。あと、チラシの方をご覧いただきたいんですが、裏面の方をご覧いただきたいんですけども、左側が1日目の10月13日、土曜日のスケジュールで、右側が二日目10月14日、日曜日のスケジュールになっております。13日がメイン行事という事で、第一部、記念式典、第二部、基調講演、第三部フリートークという事で、一部の記念式典では例年、森づくりや木材利用、環境教育などで貢献のあった四国各県の団体を選定して、四国山の日賞の表彰式などを行なっております。

第二部では今回、高知県が開催県という事で84プロジェクトとコラボさせて頂いております。梅原真さんに森林をタノシクするプロジェクトというテーマで基調講演を頂くようにしております。

また、第三部のフリートークでは84談義と題しまして、84プロジェクトで活動しておる～山が経済を生み山で働く人たちが元気になる活動～をテーマと致しまして、梅原さんと84メンバー、基金運営委員でもおいでの川村さん、それから井上将太さん、それから84プロジェクトの事務局の川村聡志くんを交えてフリートーク形式で会場の皆さんと共に、どうやったら四国の森づくりを通じて山が経済が元気になっていくかという事を議論して頂くといったような形を考えております。是非、お時間がございましたら委員の皆

様も会場の方へご来場頂ければと思います。

それと二日目の分科活動ですけれども、AコースからCコースまでそれぞれ、自伐林家コースと、森の工場の見学、それから甫喜フェスの自由見学コースといった形でコースを設けております。もう1枚、分科活動と交流会の申込書もお付けしておりますので、申し遅れましたけども、交流会の方は一日目の夜、森林ボランティアとか川村さん、梅原さんにもご出席は依頼はしておるところなので、こちらの方も交えて、交流会を開催する予定ですので是非、お時間があればご参加ください。二日目の分科活動も行ってみたくらいらっしゃる委員の方がおいでましたら、こちらの方までFAXでお申し込み頂ければと思います。また、PRの方も是非宜しくお願ひしたいと思います。

(根小田委員長)

これは市町村とか、いろんな所へは配布はしてるんですか。

(出口主任)

はい、配布しています。全部の市町村、森林組合、業界団体、あと高知大学農学部へ配布させて頂いてます。あと、森林ボランティアには勿論の事ですが。あと四国銀行、高知銀行、幡多信用金庫といった金融機関です。

(根小田委員長)

この山の日の一日目ですけど、定員200名って書いてあるけども、先着順200名ですか。

(久保補佐)

そうです。

(出口さん)

椅子が約200くらい構えてあって、来た方から前からどんどん座って頂くようなイメージです。

(根小田委員長)

それは、私が参加するということを主催者に申し込んでおく必要がありますか。

(久保補佐)

我々に連絡頂いたらと思います。

(根小田委員長)

了解しました。

委員の方は特に無いですね。はい、それじゃ今日の委員会は以上にさせていただきます。どうもありがとうございました。

(事務局、委員)

どうもありがとうございました。